

平成27年5月12日参議院文教科学委員会質疑

**○松沢成文君** 次世代の党の松沢成文でございます。

私も昨年の委員会から、このスポーツ庁設置については早くした方がいいということで何度か質問しておりますので、法案にも賛成の立場からですが、ただ幾つか不十分な点もあるので、質問をさせていただきたいと思います。

ちょうど一年前の、昨年の四月三日に当委員会のこの一般質疑で、スポーツ庁をどういった理念でつくり上げていくのかということをお私には大臣に質問いたしました。その際、大臣はこうおっしゃっているんですね。文科省の中にあるスポーツ・青少年局を外局にしてスポーツ庁を設置するのであればそんなに難しい話ではないが、そうではなく、スポーツ基本法の理念、スポーツ施策の付加価値が最大限高められるように、権限と機能を集中できるような体制にしなければならないと、こう言っているんですね。

ただ、結果として、今回上がってきた法案は、文科省の外局としてスポーツ庁が設置されて、ほとんどの事業もあるいは予算も、他省庁のスポーツ関連の事業予算から移管はされていないんですね。この結果を見ると、私は大臣の描いていた目標からすると極めて不本意なスポーツ庁設置法案になっているんじゃないかと言わざるを得ないんですね。そこをまず大臣がどう考えるかが一点です。

それと併せて、先ほども小さく産んで大きく育てるんだとおっしゃってました。まあ最初はこれでスタートするけれども、日本のスポーツ振興に向けて、スポーツの総合的な行政の推進母体としての組織にしていくために、どんな視点からこのスポーツ庁を育てて、大きく、大きくというか、サイズだけじゃないですね、中身の濃いものにしていくのか、この二点、まずお伺いしたいと思います。

**○国務大臣（下村博文君）** 御指摘のように、私は、スポーツ庁の設置に当たりまして、単に文科省のスポーツ・青少年局をそのまま庁に格上げするのではなくて、政府全体としてスポーツに関連する施策を総合的に実施できる体制を構築することが必要であると考えてまいりました。

このような考え方の下に、スポーツ庁の在り方を検討、調整したところ、他省庁のスポーツ関連業務は、いずれも、それぞれの任務の観点からスポーツ以外の分野と一体的に行われているものであり、スポーツ部分だけを取り出して移管することはできないということから、

事務の移管はしないことといたしました。

ただし、今回のスポーツ庁設置に先行して、平成二十六年四月からは、従来、厚労省が所掌しておりました障害者スポーツに関する事業のうち、パラリンピックなどの、スポーツ振興の観点からの事業として整理できるもの、これは文科省に移管をし、スポーツ行政の一元化を図ってきたところであります。

一方、今回、文科省の所掌事務として、新たにスポーツに関する基本的な政策の企画及び立案並びに推進、また、スポーツに関する関係行政機関の事務の調整を規定をし、スポーツ庁が関係省庁の司令塔的な機能を果たすことができるようにいたしました。

さらに、スポーツを通じた健康増進や地域活性化、国際的地位の向上に向けた施策をスポーツ庁において推進していくことができるよう、関係省庁との連携を強化し十分な体制を確保するため、七府省から計二十三名の定員をスポーツ庁に再配分することといたしました。

これが小さく産んで大きく育てるとということにもつながってくるかとは思いますが、このスポーツ庁というのはスポーツ立国を目指すと、そして、先ほどからも答弁しておりますが、例えば医療費の、生活習慣病七・七%、金額にすれば三兆円ぐらいはスポーツをきちっとすることによってコストダウンすることができる。しかし、実際に三兆円も要らない。その百分の一のスポーツ予算しか今まで掛かっていないわけですから、相当、百分の一とは言いませんけれども、しかし何十分の一かのスポーツ関係の予算を増額するだけでその百倍近くの成果、効果が上がるようなこと、これは一体的に取り組むことができるのではないかということ、今後、国民の皆さんに理解が得られれば、単に省庁の肥大化ではなくて、これは歳入のコストダウンにもつながってくると、こういう視点から、このスポーツ行政を総合的に実施できる体制が格段に強化できるまずスタートに立ったということでこの法案を出させていただいたという経緯がございます。

こういう視点から、国会で成立をさせていただければ、しっかりスポーツ庁がこれから国民に大きく貢献できるような体制整備に向けて更に努力してまいりたいと思います。

**○松沢成文君** その方向で頑張っていたいただきたいと思います。

二点目に、この五輪に向けた選手強化費の配分についてお伺いしたいと思います。

本年二月に開催された文科省の競技力向上タスクフォースの初会合では、一五年度以降の強化費は、文科省傘下の独立行政法人スポーツ

振興センター、いわゆる J S C で一元化して管理することが決定されました。タスクフォースが選んだ有望種目の重点的な支援は戦略的強化と位置付けて、この費用は J S C から直接競技団体に渡ることになります。しかし、その一方で、合宿だとか海外遠征、専任コーチの設置など基盤的強化のための費用は、J S C から日本オリンピック委員会、J O C を経由して各団体に配分されるということになりました。

実は、国会の方のスポーツ議連のプロジェクトチームは、オリンピック委員会とは別の政府系組織が強化費用を配分する、イギリスなんかはそうやっているらしいんですね、イギリス方式などを参考にして、新しい独法、つまり J S C を改組して新しい独法をつくってそこから競技団体に直接配分する案をまとめていましたけれども、当然今までのやり方でやってきた J O C がこれに強く反発したわけですね。

この案は、そもそも J O C 傘下の団体で助成金の不正受給だとかあるいは不適正な経理が相次いで発覚したことから、J O C の関与を弱めて文部省自らに多額の公的資金の用途について透明性と説明責任を担保させようとして、議連、この案を作ってきたんだと思います。独法である J S C の運営交付金の配分の話なので、その内訳はまだ公表されていませんが、強化費の総額が六十三億のうち、戦略的強化費が十二億、基盤的強化費が五十一億となる見込みだと私は聞いています。

そうなると、結局は総強化費の八割もが J O C が窓口になって配分されることになり、配分時の審査などでも一定の権限が J O C に残ることになります。オリンピック委員会から独立した組織を通じて直接競技団体に配分するというイギリスなどの方式とは全く異なるものになってしまいますけれども、大臣はこの辺りを、私は改革というよりも J O C と文科省の協議の中で足して二で割ったような案になってしまっていますが、大臣はこれでよろしいんでしょうかね。いかがお考えでしょうか。

**○国務大臣（下村博文君）** 選手強化については、今後とも国として戦略的に進めていく必要があります。同時に、競技団体における適正な経理処理を含めたコンプライアンス体制の強化も大変重要であります。このため、競技力向上事業におきまして J S C に資金を一元化する、そして、これは要するに不正経理等がきちっとチェックできるような形を取ると。一方で、文科省に競技力向上タスクフォースを設置し、戦略性を持った基本的な強化、配分方針の作成及び事業後の全体評価を行うことといたしました。

この J S C に資金が一元化されたということと、それから一方で、

どこの競技団体が、不正はクリアできたとしてもどのような選手がいてどれぐらいこれから国際社会の中でそれぞれの競技団体が伸びていくかということは、やはりJSCではよく分からない部分があります。JOCがきちっと入ることによって、それぞれの競技団体がどのような選手の育成をしながら力を入れるかという意味では、やはりJOCの意見をきちっと尊重しながら配分をします。つまりJOC経由で競技団体に配分される強化策、これをJSCが確認できる仕組み、こういうことをすることによって、戦略性を持った選手強化になるということと、それから経理の一層の適正化にもつながるということで、足して二で割るということではなくて、トータル的なバランスの中ではやはりこのような仕組みが一番適切ではないかというふうに判断したところであります。

**○松沢成文君** もう一点、このタスクフォースではこの三月に、三十個前後の金メダルを獲得することを目標にして、メダル獲得が有望な二十一競技の種別・種目を重点競技種目に設定をいたしました。この重点競技種目は、若手有望選手の数、競技力、直近の五輪二大会の成績を分析して選定し、年度ごとに見直すとのこととあります。

さらに、先月の二十日には、文科省は、今年度の世界選手権など主要国際大会で各競技が目指すメダル数、入賞者数などの目標設定を取りまとめています。そこでこの目標に向けた強化計画と達成度をチェックして効果的に配分するとの方針も示しています。このほかにも、競技団体の組織運営の健全性も配分を決める際の評価対象になることも明らかにされています。

大切なことは、この配分を決める際には、先ほどのような客観的なデータを示しているわけですから、このデータをしっかりと公表して、それで配分額の決定に至る過程の透明性というのを確保しなければ、これ競技団体のみならず国民全体の理解を得ることができないと考えますが、もちろん、先ほど田村委員の主張のとおり、オリンピックはメダル獲得だけが目標であってはいけないと思います。オリンピックをやることによって様々な価値を生まなきゃいけないと思いますが、ただ、やっぱり日本、開催国が活躍して、メダルも獲得して頑張っているというのが一番国民の皆さんも喜びますし、そのために選手強化は私は重要だと思うんですが、その配分の透明性がないと、また私は大きな不信感を呼ぶと思うんですが、これについては大臣いかがお考えでしょうか。

**○国務大臣（下村博文君）** それはおっしゃるとおりだと思います。

競技団体の選手強化費の配分、これは透明性、公平性を確保するということが最も大切だと思います。

このため、文科省に設置した競技力向上タスクフォースにおきまして、各競技団体の選手強化費の配分の際の審査の観点などについて公表しております。これは、例えば有望選手がどれぐらいいるのか、それから選手強化計画としてのプログラムはどの程度きちっとできているのか、あるいは成績、パフォーマンスとしてどれぐらい出そうなのか、またガバナンス体制等、組織体制がきちっとできているのかどうかと、こういう観点から、競技ごとに世界選手権大会の入賞者数などの重点業績評価指標、KPIを設定し、その結果を翌年度の配分額に反映することとしておりますが、このことについても公表しております。

文科省としては、今後の議論や資料についても原則公表していくというふうなスタンスで強化費の配分額の決定、それから透明性の確保に努めてまいりたいと思います。

**○松沢成文君** よろしくお願ひします。そこは重要だと思います。

最後に、五輪に向けた選手育成環境の整備に関連して、小学校、中学校、高等学校における公欠の取扱いについて、昨年もお聞きしましたが、もう一度確認をしていきたいと思ひます。

現状では、各競技団体が主催する強化合宿に生徒が参加する際に、小中高校がいわゆる公欠扱いにするか否かの判断は各学校の学校長に委ねられています。しかし、これでは地域によって不公平な取扱いとなってしまう可能性があります。

そこで、昨年三月の当委員会において、私は、日本代表やそれに準ずる関東や関西といった地域を代表するような選手であれば、各競技団体からの申請手続で公欠にする、あるいはこうした合宿を学校教育活動の一環として指導要録上、出席の扱いとするようなガイドラインを整備すべきではないのかという質問をいたしました。これに対して大臣は、今後、参加形態や地域差、それから過去の事例、教育上の意義や学校の教育活動との関連等を考慮しながら、学校における公欠や出席の取扱いについてどのような工夫ができるのか、改めて各都道府県教育委員会、そして競技団体、また大会組織委員会等と連携しながら検討していきたいと、このように答弁しているんですね。

あれから一年余りたっています。その検討状況は今どうなっているんでしょうか。これ、早く検討してしっかりとガイドラインなり仕組みをつくってあげないと、オリンピックにも間に合いませんし、また

今後の日本の選手強化にも様々な悪影響を与えてしまうんじゃないかなと思っておりまして、検討状況をお知らせいただきたいと思います。

**○国務大臣（下村博文君）** 御指摘のように、学校に在籍するトップアスリートが学校教育への影響等適切な配慮がなされた上で強化合宿等に参加しやすくするようにする、これは極めて重要なことだと思います。

前回そういう御指摘があった中で、文科省とJOCにおきましてその取扱いについて検討を進めております。競技団体のニーズを把握する観点から、JOCに公欠や出席の取扱いについての過去の具体的な事例や課題等について調査を依頼しているところであります。

なお、国民体育大会への中学生の参加につきましては、学校教育への影響に配慮しつつ、体力に優れ、著しく競技水準の高い者に限ること、また、国体への参加が教育上有意義であると認められることといった条件を満たした場合は出席扱いにすることが適当である旨、国から取扱いが示されているところであります。

今後、二〇二〇年東京大会に向けた代表選手が決まっていくことを見据えて、国体の整理も参考にしつつ、各都道府県教育委員会、競技団体、大会組織委員会等と連携しながら更に検討を深めてまいりたいと考えております。

**○松沢成文君** これ、もうある競技団体ではやっぱり不公平感がすごい出ちゃっていて、ある強化選手は、同じ中学生でも校長の理解があって、ああ、行ってこいと、公欠になると。でも、同じ公立の中学校の強化選手、学校が違うために、こっちの学校では様々教職員会議だとか父兄からの意見が出て、それはおかしいんじゃないか、で、校長が決断できないから、おまえ駄目だといって行けないと。こういう不公平感が出ちゃっているという現場の声もあるので、できるだけ私は、ここは公平なガイドライン、ルールみたいなものをきちっとやっぱり文科省の方で決めていくということが必要だと思いますので、是非とも検討、推進、早めていただきたいと思います。

時間ですので、終わります。